

令和4年度 重点的な取り組み

1. ボランティアの養成・育成

介護の専門職が不足する中、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活が継続できるよう、高齢者の生活を地域で支える担い手として、ボランティアの養成・育成に取り組めます。

2. 住民主体の通いの場、通所付添サポート事業の推進

新たな住民主体の通いの場や、高粱いきいきロコモ予防体操に取り組む元気なからだづくり隊グループの設置支援をすすめます。

また、「通いの場」への移動手段のない人や、「通いの場」への移動が困難な高齢者に対し、「通所付添サポーター」が2人1組での外出支援を行う通所付添サポート事業に取り組めます。

3. 生活支援体制整備事業

高粱市社会福祉協議会に4人の生活支援コーディネーターを専任で配置し、地域ニーズや資源の掘り起こし、関係者間の情報共有やサービス提供者とのネットワークを構築していきます。14の第2層協議体（地区社協）において、「通いの場」「生活支援」「見守り」等それぞれの地域課題に対し、具体的に目標設定し活動をすすめます。

4. 在宅医療・介護連携推進事業

医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい生活を送れるよう関係者間の連携強化を進め、日常の療養支援、入退院支援、急変時の対応、看取りの場面で質の高いサービスが一体的に提供できるよう、連携体制の強化を図ります。また、医療・介護関係者が、対象者本人等と意思を共有し、今後の治療・療養について本人・家族と医療・介護関係者が予め話し合う自発的なプロセスであるACP（アドバンス・ケア・プランニング）の取り組みについて普及と啓発を図ります。

5. 認知症施策推進事業

認知症の人本人の思いや望みを聴く姿勢を持ち、本人ミーティングを通じた本人支援に取り組めます。また、本人の望みを踏まえた認知症ケアパスの作成に取り組めます。

また、チームオレンジコーディネーターを配置し、認知症サポーターステップアップ

ブ講座に取り組みます。さらに認知症の人の悩みや家族の身近な生活ニーズと認知症サポーターをつなぐ仕組みであるチームオレンジを備中地域に設置します。

認知症サポーターの養成等を通じた認知症の理解促進や相談先の周知、世界アルツハイマーデー（毎年 9 月 21 日）にあわせ、広報紙や市行政放送を利用した普及啓発等を行います。

6. 地域ケア会議の推進

(1) 地域包括ケアシステム検討委員会

(2) 認知症施策検討委員会

(3) 在宅医療・介護連携推進協議会

別紙説明資料

(4) 小地域ケア会議

・民生委員会に併設して開催

(5) 個別課題の解決のための会議

・地域ケア個別会議

・多職種事例検討会議

・高齢者虐待コアメンバー会議

令和4年度地域包括ケアシステム検討委員会

項 目		内 容
令和4年度	事業目標	① 介護予防活動の拠点となる「通いの場」等の育成 ② 通所付添サポート事業の推進 ③ 高齢者の生活を地域で支えるボランティアの育成
	目指す成果	① 新たな「通いの場」が創設されることにより、地域で高齢者の介護予防が図れる。 ② 通所付添サポーターの養成により、事業の普及が図られ、高齢者が「通いの場」への参加がし易くなる。 ③ 介護専門職が不足する中、ボランティアによる高齢者の生活支援によって、在宅での自立した生活が継続できる。
	取り組み	① 第2層生活支援コーディネーターと連携し、各地域へ「通いの場」の創設を呼びかける。 ② 第2層生活支援コーディネーターと連携し、各地域へ通所付添サポーター養成講座の受講支援、事業運営の支援を行う。 ③ ボランティア養成講座を開催し、高齢者の生活支援を行うボランティアを育成する。
	年間予定	① 地域包括ケアシステム検討委員会（年3回）：7月、10月、2月 ② 第1層協議体と第2層協議体の情報共有を図るため、生活支援体制整備事業連絡会を定期的に開催。 ③ ボランティア養成講座の開催。

令和4年度認知症施策検討委員会

項 目		内 容
令和4年度	事業目標	①支援困難となりがちな家族や地域と疎遠な独居高齢者の実態把握強化 ②認知症の正しい知識の普及啓発と医療・介護の連携による切れ目のない支援体制（認知症初期集中支援チーム）の強化 ③認知症サポーターを中心とした本人・家族のニーズと支援をつなぐ仕組みの整備（チームオレンジの構築） ④本人が発信できる場の整備
	目指す成果	① 支援の必要な認知症の人を早期に把握し支援できる。 ② 認知症に早めに気づき、本人、家族が必要時に適切な支援を受けることができる。 ③ 認知症の人への見守りの目や支援者が増えて、本人やその家族が安心して生活できる。 ④ 認知症の人同士の繋がりができる。
	取り組み	① 独居高齢者の実態把握を積極的に行い、家族や地域と疎遠な高齢者を早期に支援する。 ② 9月アルツハイマー月間における認知症理解の啓発、認知症サポーター養成講座や介護予防出前講座の積極的開催 ③ 認知症サポーターステップアップ講座によるオレンジサポーターの育成。チームオレンジとして活動するための基盤づくりをすすめる。 ④ 本人ミーティングの開催
	年間予定	① 認知症施策検討委員会（年3回）：7月、11月、2月 ② 家族介護者交流事業、認知症カフェ連絡会、キャラバン・メイト連絡会の合同開催：7月 ③ 認知症サポーターステップアップ講座の開催、チームオレンジの構築 ④ 認知症声かけ訓練の実施 ⑤ 本人の声を活かした認知症ケアパスの作成 ⑥ 高梁・新見地域認知症疾患医療センター会議 高梁部会への参加

令和4年度在宅医療・介護連携推進協議会

項 目		内 容
令和4年度	事業目標	①住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療と介護の関係者が協力して、在宅医療と介護の連携強化を図る
	目指す成果	⑤ 医療と介護の関係者が協働・連携を図り、在宅医療と介護を一体的に提供できる。 ⑥ 人生の最終段階における望む場所での看取りを行えるように、医療・介護関係者が、対象者本人と人生の最終段階における意思を共有し、それを実現できるように支援できる。 ⑦ I C Tの利活用によって、業務の効率化や多職種間の連携を図ることができる。
	取り組み	⑤ 他職種への理解を深め、連携がスムーズに図れるよう多職種連携研修会を開催する。 ⑥ 人生会議（A C P）のツール（話し合いガイド・記入シート）の有効活用により、人生会議（A C P）の理解、普及・啓発を図る。 ⑦ I C Tを活用した医療・介護連携システムの在り方を検討する。
	年間予定	⑦ 高梁市在宅医療・介護連携推進協議会 年2回開催 ⑧ 実務者部会 年3回程度開催 ⑨ 実務者部会コアメンバー会議 必要に応じて適宜開催 ⑩ 高梁市医療・介護市民公開講座の開催 ⑪ 在宅医療、人生会議（ACP）の普及啓発 ⑫ 多職種連携研修会の開催 ⑬ 専門職の資質向上に係る研修会の開催